

安心で健康に暮らせる村へ

公共交通機関再整備や若者の移住・定住など

任期満了に伴う御杖村長選が昨年11月19日に投開票され、村のニーズにあった公共交通機関の再整備や、若者の移住、定住などを訴えた現職の伊藤収宜村長が3選を果たした。「子どもから高齢者まで、安心で健康に暮らせる村にしたい」と話す伊藤村長に、村で進めている若者向け住宅建設や高齢者への取り組み、また旧御杖小学校の進捗やみつえ高原牧場の今後の展開などを含め、目指すまちづくりについて聞いた。



御杖村長 伊藤 収宜氏に聞く

「2期目では、主にどのようなくち取り組みましたか。」

一番大きな事業では、小中学校の統合で校舎を改修し、施設一体型の小中一貫校にしました。災害対応の部分では、村には神末、菅野、土屋原、桃俣の4つの大字があるのですが、そこに1つずつある、避難所としても活用できる体育館の耐震化を進めました。今年の3月末で全て完了になります。

「当選された時に、子どもから高齢者まで健康に暮らせる村にしていこうとおっしゃっていました。どういった取り組みをお考えですか。」

継続的な部分もあります。が、子育て世代に対しては保育の無償化や給食費の無償化などを進めています。今後は、子ども医療費で、例えばワクチン接種費用の拡充といった部分についても考えていかなければと思っています。

「高齢者に向けての取り組みについては。」

村の高齢化率が約60%と高くなっています。高齢者の皆さんが快適に暮らし、「やっぱりこの村に住んでいてよかった」と思ってもらわなければいけません。

村では今、ふれあいバスとデマンド交通の2つの公共交通を走らせています。ただ、ふれあいバスは村を西から東へ行くのに1時間近くかかり、本数もまだま

だ少ない。

デマンド交通は年々利用者が増えていますが、前日までの予約が必要となっています。まだ具体的な話になっていませんが、もっと村民の皆さんに使いやすい方法を検討します。

「見回りの取り組みもされていますか。」

民間企業と見守りの協定を結んで取り組んでいただいています。安否確認サービス事業者に委託して、一人暮らしの高齢者や、高齢者夫婦に見守り機能のついた、身に着けられるペンダント型の通報機器と本体機器を去年から設置していただいています。

緊急時には民間事業者に



子育て住宅には、村出身の女性が都市部で結婚し、家族と一緒に帰ってきた世帯も



道の駅の周辺で建設している単身者向けの集合住宅



民間活用の方向で進めている旧御杖小学校の利活用

「御杖村へ行ってみたいと思う人増やしたい」

連絡がいく仕組みになっていきます。また月に一回は民間事業者がその世帯に連絡してくれている他、24時間健康相談も受け付けていただいています。

「村への移住、定住については。」

村に移住してきていたただいた人の意見も取り入れた。子育て住宅を5戸作りまして。入居者募集から半年ほどで埋まり、非常にありがたいことですが、その中に村出身の女性が都市部で結婚されて、家族と一緒に村に帰ってこられた世帯もあります。

他にも3月に完成するも

のですが、道の駅の周辺に単身者向けの集合住宅を作っています。入居者の募集はまだこれからですが、すでに「入居したい」という声も聞いています。

村内では空き家も出ています。そういった中で、結婚されたら単身住宅から、空き家を活用して移ってもらう、もしくは今までもつくった公営住宅へ移ってもらう。そういったことも考えていこうと思っています。

「県のみつえ高原牧場畜産団地整備計画が一旦白紙となりましたが。」

県や地元などの話し合いの結果、環境対策などさまざまな課題があることから一旦白紙になりました。牧場については県有地ですが、未利用地の活用だけでなく、村の地域振興にどうつなげていくかを含めて、今後県と検討していこうと考えています。

「旧御杖小学校の利活用については。」

これまでに文科省の廃校舎利用のサイトに登録をお願いしたり、公募したりと取り組んできましたが、なかなか村と条件が一致する応募がない状況になっています。検討委員会で民間活用と

いう方向になっていきますが、このまま建物を長期間放置しておくわけにもいきませんし、もしあまりにも長引き、民間活用が望めないとなれば、違う活用方法の検討もしなければなりません。

「3期目の意気込みを。」

3期目についてはやはり、子どもからお年寄りまで、安心にそして快適に住んでいただけるように取り組んでいきたいと思っています。そしてそのような村を見ていただき、御杖村へ行ってみたいと思うてくれる人を増やしていきたいと考えています。